

中部歴まち計画認定都市の取組事例紹介

第一部 多様な人々が参画する歴史まちづくり

三重県明和町

▼プレゼンター 世古口 哲哉町長

源氏物語にも登場する齋宮・齋王を町の歴史文化遺産の核として、歴史まちづくりを推進している。

齋王を偲ぶ祭りとして行政と有志により始まった「齋王まつり」は回を重ねるごとに住民主導へと変わっていき、昨年で40回を迎えた。住民が中心となり実行委員会が組織され、町が補助をしながらも、委員会自らが寄付金を募りまつりを運営するなど、地域一丸となった取り組みを進めている。

また、平安時代の宮殿を復元した建物、町が整備した公園で、DMO法人・関係団体が中心となり、イベント等が開催されている。そのほか、地域住民が守る神社の活性化プランを地域DMO法人が提案するなど、互いが連携することにより、活性化・にぎわい創出につながっている。

このように、地域住民・関係団体・登録DMO・行政が連携しながら一丸となって歴史まちづくりに取り組んできた。こうした活動を守る機運を醸成し次世代までつないでいく。今後は、祭りやイベントを見るだけでなく関わっていただける方を増やししながら、価値ある歴史的風致を持続可能なものにしていくことが重要だと考えている。



多様な主体参画と歴史まちづくり



齋宮奉納新能

復元建物等を利用した
イベント・PR



いつきのみや観月会



プロジェクションマッピング

明和町

愛知県岡崎市

▼プレゼンター 中根 康浩市長



住民・民間事業者主体での取組事例を紹介。かつての岡崎城郭内の自治会である7町・広域連合会が中心となり、「えびすくい音頭」を考案。地域の盆踊りを盛り上げるだけでなく、大河ドラマでもたびたび登場し話題となり、10月に開催した家康行列ではドラマキャストの方にも踊っていただいた。また、グッドデザインアワード2023において、7町・広



域連合会がグッドデザイン金賞を受賞した。今後の活動がさらに楽しみに。

また、今年9月にフィールドディスカバリーゲーム in 岡崎を開催（主催：フィールドディスカバリー協会）。市内の歴史文化資産を自分の足で巡り探検・発見するイベントで、スポーツ・健康と組み合わせることにより、歴史好き以外の方にもその魅力をアプローチできた。

このような歴史まちづくりへの多様な主体参画のためには行政によるきっかけづくりが重要であると考えている。これまでに岡崎城発掘調査の現場公開、歴史PR動画の制作などを実施してきた。今後は歴史への興味関心が薄い方も巻き込むことも重要であり、継続してそのきっかけづくりに励み、文化財保存活動への参加、伝統文化の継承・後継者の育成へつなげていきたい。

静岡県掛川市

▼プレゼンター 久保田 崇市長

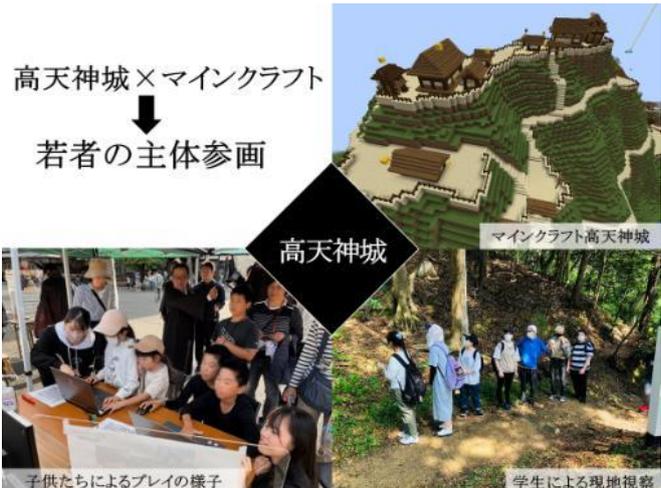
市内の横須賀城、高天神城、掛川城の3城で行われている、さまざまな主体による歴史まちづくりの取組を紹介。

横須賀城の城下では、歴史的な情緒あるまちなみを活かした催しが各種行われている。実際に住まわれている民家や空き家を開放しアーティストへ提供、展示を行う「遠州横須賀街道ちっちな文化展」が住民主体の取組として毎年10月に開催され、多くの方にお越しいただいている。

高天神城は山城であり現実での復元が難しいことから、デジタル技術を活用し仮想空間において復元の取組を行っている。今年、地元の常葉大学の学生と連携し「マインクラフト」というゲーム上に高天神城を精巧に再現した。難攻不落とされた高天神城をゲームで体感できる。幅広い世代から親しみのあるコンテンツを活用することで、学生の主体的な参画を促し、小中学生などにも、高天神城に親しみを持ってもらうことができた。

全国初の木造天守閣として復元された掛川城

は、今年開門30周年のメモリアルイヤーを迎え、これを記念したイベントも多数企画している。具体的には、高校生が作成した動画をプロジェクションマッピングとして掛川城に映し出す予定。こうした若者が主体となった歴史まちづくりへの参画も積極的に行われている。



愛知県津島市

▼プレゼンター 日比 一昭市長

津島市には津島神社や多くの寺社、歴史的建造物、ユネスコ無形文化遺産に登録された尾張津島天王祭を始め数々の祭りがあり、多くの歴史や文化が根付いている。これらの歴史的・文化的資源を活かしながら持続可能な都市を形成するため、「津島駅周辺まちづくり構想」を策定した。駅前エリアを「都市核」、歴まちエリアを「歴史核」、津島神社と天王川公園エリアを「自然核」として3つのエリアをつなぎ、面として整備することとしている。この計画の策定にあたって、駅の西側の天王通りのまちづくりのアイデアを



全国から募るコンペティションを実施し、日本全国から多数のアイデアをいただいた。このアイデアが計画にも息づいている。

また、駅周辺のにぎわい創出や人の流れを生み出し、暮らしやすいまちづくりを目指して、社会実験「えきまえVIP」を3年前から実施。地域住民や民間団体、地域の関係団体や、つながりのある他の都市と連携した内容を企画。キッチンカー、ワークショップ、移動動物園などの楽しみのほか、まちづくりへのニーズ調査も実施している。

また、市民参加のまちづくりの取組として、いちい信用金庫様から寄附を受けた建物の使い方や過ごし方、リノベーションのイメージ、建物でやってみたいことについて話し合い、実際にチャレンジする「津島マチナカトライアル大作戦」を実施。今後、「活動の場」と「交流の場」としてこの場を新たに活用しながら、マチナカを官民連携により魅力的で賑わいのあるエリアにしていく。こうしたまちなぎわいづくりは、官民連携と市民が誇りを持てる主体的なまちづくりが非常に重要。



シビックプライド醸成拠点等整備ワークショップ 津島市

いちい信用金庫から寄附を受けた旧天王通り支店の建物について、市民等と、建物の使い方や過ごし方、リノベーションのイメージ、この場所でやってみたいことについて話し合った。

津島マチナカトライアル大作戦！

「津島マチナカトライアル大作戦」
令和6年1月に、期間限定で建物内でやってみたいことについてチャレンジ！今後、拠点を「活動の場」と「交流の場」として新たに活用しながら、マチナカを官民連携でもって魅力的で賑わいのあるエリアにしていく。

【旧いちい信用金庫天王通支店】 【ワークショップの様子】 【トライアル企画の様子】

静岡県浜松市

▼プレゼンター 長田 繁喜副市長

浜松市は日本で面積第2位の巨大な市域のうち2/3が中山間地域である。特に天竜方面では伝統芸能が盛んにおこなわれてきたが、これらが少子高齢化により伝統行事の喪失の危機に。これを受け、「山里いきいき応援隊（地域おこし協力隊）」や、市内の大学・NPOと連携を図り、地域を支えるための取組を行ってきた。

「山里いきいき応援隊」は市内の中山間の5地域それぞれで活動し、地域での祭礼行事に関わっている。水窪町^{みさくぼちょう}で活動する隊員は、8月に開催される伝統行事「神原の虫送り」に自らが担い手として参加したり、趣味の写真を活かし観光協会へカレンダーの写真の提供や、SNSを利用し地域内外の魅力発信を行ったりしている。天竜区^{ふところやま}「懐山」で活動する隊員は、一度このまちを離れたことで故郷の良さ・魅力を改めて感じたことから故郷に戻り、正月の祭礼行事である「懐山のおくない」の新たな担い手として伝統行事を務めている。

また、地域課題の解決に取り組む市内大学との連携し、学生や研究者の力も活かしたまちづくりを行っている。具体的には、学生が地域調査を行ない、中山間地域の住民の声を反映したプロジェクトを共同で進めている。今年天竜区横山で調査を実施、その成果として、学内ギャラリーで八幡神社のお面を展示、講演会において集落の生業やお面から読み取れる遠州地方の芸能世界を解説している。



また、引佐町^{いなさちょう}で正月の祭礼行事としておよそ600年続く重要無形民俗文化財「川名のひよんどり」の保存会は、大学生などを祭礼等の伝統的な活動の担い手として位置づけ、年間を通して連携している。また、これらの継承活動に参加した学生が中心となり、NPO法人「わたぼうしグランドデザイン」が設立された。伝統文化継承にかかる担い手不足等の課題に取り組み、伝統行事の継承を目的とした活動を続けている。今年はYouTubeでのライブ配信・インターネットラジオ番組での配信を行うなど、新たな方法で伝統芸能の次世代継承の取組を行っている。

市内大学・NPOとの連携② 浜松学院大学 NPOわたぼうしグランドデザイン

NPO法人わたぼうしグランドデザイン

学生団体としてNPO設立以前の2017年から伝統文化継承にかかる担い手不足等の課題に取り組み、「川名のひよんどり」の継承を目的とした活動を続けている。



第二部 歴史・伝統を守るための行政の支援

岐阜県高山市

▼プレゼンター 田中 明市長

高山は広大な市域に多数の文化財を有しており、山奥でひっそりと町人文化が根付いてきたまちである。そんなまちに、世界の方々を含め多くの方にまちを歩いていただいている。昭和38年「暮しの手帖」に「山のむこうの町」として高山が紹介されたことをきっかけに全国的に認知され観光客が訪れるようになり、外国人も30年前ほどから訪問されるようになった。



多くの人を呼び込むことができたのは、行政と民間が連携した取り組みに加えて、高山が培ってきた伝統・文化やおもてなしの心を絶えず守ってきたことが起因すると考えている。また、その心は市外からやってきた方々との交流によって生まれたものである。市内の古い町並を訪れる方との交流を通じて、地域住民にまちの美化であったり、おいしい食べ物の提供だったり、伝統文化を守ることの大切さといったことへの意識が芽生えた。交流をきっかけに、これまで培われてきた伝統やまちがもつ価値に地域住民が気づき、それを見つめなおしながら、守り提供してきたのが高山の強みである。その継続の結果が、人がにぎわう現在の高山の姿ではないかと考えている。



少子高齢化や人口減少といった課題をどのように克服してまちをつなげていくのか、この大きな課題に対して、行政だけでは解決できない部分もある。これからも住民と一緒に、できることを着々と続けていく。また高山の積み重ねてきた「強み」を伝統芸能や伝統文化の継続・発展に活かしていきたい。

三重県亀山市

▼プレゼンター 櫻井 義之市長

歴史まちづくり計画をもとに、市は旧亀山城多門櫓の復原、JR加太駅の駅舎のリニューアルなど、文化財や建造物、街並みの整備を進めてきた。これらのハード整備をきっかけに、亀山トリエンナーレと呼ばれる現代アートの祭典や、登録文化財の旧小学校を活用したサマーキャンプ、駅舎を活用した音楽祭といった地域の新たな活動が生まれてきた。このように、行政と市民が一体となり新たな活力を見出し歴史的風致の維持向上を図っている。



一方、市内の重要伝統的建造物群保存地区である関宿では、毎年7月に行われている関宿祇園夏まつりの継承のため、まつりに使われる山車を保存する拠点の「関の山車会館」の整備を市が実施。さらには、山車の用具の修理などの市民活動に対する財政支援やまちづくり基金を活用した運営支援を行っている。このように地域の活動を市が支援し、官民協働で保存、継承している。その他にも、「関の山車会館」などでは次世代への伝承活動の継承にも力を入れている。

歴史・伝統を守るための行政支援



コロナ禍を経て、こうした伝統を守り伝えていくためには、人の営みやその精神を絶やさずに繋げていくことが非常に重要だと感じた。これまでのハード・ソフト両面の重層的な支援は歴史まちづくりを考えるうえで非常に大事なことだと感じている。官民の連携によりその真価が発揮できることから、より一層の連携を進めていきたい。

愛知県犬山市

▼プレゼンター 原 欣伸市長

犬山市ではユネスコ無形文化遺産の犬山祭、県指定文化財の尾張富士の石上げ祭など多くの祭礼・伝統行事が継承されてきた。国・県指定の文化財や伝統行事はそれぞれ支援制度が整っているが、指定を受けてない祭礼や行事がたくさんある。こうした未指定の行事に対して、これまでも市は費用面での支援を続けてきたが、新しい取組として、犬山の文化・歴史を紡ぎ地域を元気にするためのマスタープランである「犬山市文化財保存活用地区計画」を策定、令和5年7月に国の認定を受けた。この計画策定にあたり市内の関係団体への調査を行ったところ、団体の皆さんから交流や共同を求める声が多く挙げられた。



これを受け、市は新たな取組みとして「犬山歴史文化ぶらっとフォーラム」を組織。市民団体の連携・情報共有、互いを補完し合う場として、市・地元大学・団体により組織されたプラットフォームであり、市と大学が事務

犬山市独自の取り組み 「犬山歴史文化ぶらっとフォーラム」 市・大学・市内団体の連携の場を創出！

「犬山歴史文化ぶらっとフォーラム」概要

第1回犬山歴史文化ぶらっとフォーラム
令和5年11月11日
(於名古屋経済大学)

局となり今後の事業展開の意見交換やワークショップを行うほか、地域を飛び越えたいろんなイベントを考えていく場となっている。

また、市内の子どもたちを対象に犬山城みらいサポーターを募集。犬山城の床磨きなどを通じて、子どもたちに犬山城を好きになってもらうことを目的としている。犬山城は、建造物の保存はもちろん、世界遺産登録を目標としていることから、子どもたちを巻き込みながら、未来をつなぐ新たな活動を展開していく。私たちは、祭りや文化財を通じて、人を、地域を、そして心を繋げていくものにしたいという思いで、これからも歴史まちづくりへ取り組んでいく。

岐阜県恵那市

▼プレゼンター 小坂 喬峰市長

岩村町で江戸時代から伝承され続けてきた「秋祭り行事」は、人口減少・高齢化により担い手不足が減少していることから、現在は地元の小中学生に担い手として参加してもらっている。また、行政はこれらの行事に必要な道具の用具修繕等への助成を実施。また、同じく岩村町の岩村城址で続いている^{たきぎのう}新能は、地域の若い方が実行委員会を組織し、演目はもちろん、屋外へ設置する舞台の制作や当日の設営まで地元住民により行われている。この伝統行事継承のために、市も運営費を全面的に支援している。



また、江戸時代に歌川広重が中山道六十九次として大井宿を描いたことから、恵那市子ども版画コンクールの入賞作品を大井宿内の広重美術館にて展示している。版画を通じて、故郷の恵那、そして中山道大井宿の魅力を改めて認識し、郷土愛を育むことができると感じている。

現在、隣接する中津川市でのリニア中央新幹線の駅の開業を控えて、恵那市内でも工事がスタートしている。人の流れが大きく変わろうとするなかで、こうした歴史や文化を保存すること、そしてそれを後世に残していくこと、これが何より地域の存続にとって重要だと考えている。市としてもこうした取り組みを全面的に支援していく。



岐阜県岐阜市

▼プレゼンター 柴橋 正直市長

岐阜市民にとって「岐阜といえば」の象徴、岐阜城・金華山。かつて織田信長公の居城が築かれた「本物の歴史」を継承するための行政の取組を紹介。

かつて信長公が客人をもてなす際は金華山の山頂部へお連れし、濃尾平野の尾張国・美濃国・伊勢国を見渡す眺望をお見せしおもてなしをしていた。ただ、現在の山頂は木が生い茂っており眺望が開けていない部分もあることから、木の剪定を進め天守のおもてなしの空間を復元整備していきたいと考えている。また、剪定により山麓から見上げる城の眺望もよりよいものにすることができる。天守から信長がお見せし



ていた景観の再現、平野から見上げる岐阜城の真の姿の再現、この2つの側面で、城郭景観の復元に取り組んでいる。あわせて、山麓での庭園の復元整備も実施し、信長公のおもてなしを復元し本物の価値に触れていただけるようにしたい。

また、こうした本物に触れる体験の効果をさらに高めるため、民間事業者の活力を導入し、信長公の楽市楽座をイメージしたおもてなし空間を岐阜公園の整備で作っていく。こうした城郭景観をこれからも次世代に継承していただけるよう取り組んでいきたい。

静岡県三島市

▼プレゼンター 豊岡 武士市長

伊豆国一の宮として栄え、源頼朝が源氏再興を祈願した三嶋大社において、毎年8月15日、16日、17日に開催されている三嶋大祭りの伝承における取組を紹介。

大祭りは古くから三嶋大社の例大祭の付祭りとして開催され、伝統文化の継承、地域コミュニティの活性化、地域住民の郷土愛醸成、交流人口拡大等を目的に、多くの市民や観光客に親しまれるよう、趣向を凝らしたプログラムを実施している。また、この祭りはしゃぎりの競り合い・農兵節パレードなどの三島の伝統文化の披露の場でもある。地域住民はコロナ禍においても大祭りに備え、しゃぎり・三島囃子（県指定民俗芸能文化財）、農兵節など絶やさず継承してきた。

市を代表する郷土芸能である農兵節を後世に伝える普及会は、幼・小・中・高校・自治体への出前講座を実施しており、市はこのような伝統芸能の活動を支援している。

少子化やこども会の減少、地域コミュニティの衰退など課題は多くあるが、市のアイデンティティを語るうえで、大祭り・しゃぎりなどの伝統行事は欠かすことができない。今後も、地域の賑わい創出と伝統芸能の継承に寄与していくとともに、三島市の宝を活かし地域住民の誇りや愛着を醸成しながら、多くの観光客に三島のファンになってもらえるよう取り組んでいく。

Park-PFI制度を活用した整備

民間活力の導入

Park-PFI制度の採用
食事や土産物を購入できる施設の整備

歴史
継承

楽市楽座を
イメージした整備

・城下町のまちなみ
・多くの人が集い、賑やかで活気あふれる

「岐阜」を嗜み、OMOTENASHIを堪能する
注）イメージであり、変更となる場合があります



農兵節普及会補助事業



・市内外で農兵節を披露・指導・普及・宣伝を行う普及会を支援
(幼・小・中・高校等への出前講座、伝統衣装の作成など)

※来年度は農兵節のイベントを祭り期間中に実施予定



第三部 明治～昭和の歴史遺産の保存・活用

岐阜県美濃市

▼プレゼンター 武藤 鉄弘市長

市内の重要伝統的建造物群保存地区における活用事例について紹介。江戸時代の町家を改装し、NIPPONIA 美濃商家町、町家ホテル baison などの宿泊施設として活用。これらはそれぞれの所有者から市へ寄贈を受け改修を加えたのち、宿泊施設として開業している。地域のイベントの場としても活用されており、まちに賑わいをもたらす好事例である。その他、町家を美濃史料館としても活用している。



毎年10月に開催されている、美濃和紙で作られたあかりアートをうだつの町並みに展示する「美濃和紙あかりアート展」。毎年多くの客を集める企画であるが、このあかりアートの世界を年中いつでも楽しめるよう、美濃町産業会館を「美濃和紙あかりアート館」として改修し入賞作品の展示に活用している。

大正5年に竣工した日本最古の木造吊橋・美濃橋の保存の取組も紹介。山々と澄んだ長良川を眺めながら楽しむことができる橋であり、日本最大級の支間をもつことから、文化財としてのみならず土木建造物としても非常に価値が高い。この保存のため、令和3年まで改修工事を5か年かけて実施してきたが、その費用は8億円に上った。技術面も含め、文化財を守っていくことの難しさも実感した。



岐阜県郡上市

▼プレゼンター 日置 敏明市長

郡上八幡の街並みは永禄2年頃(1560)からの城下まちづくりによって形成されてきた。これらは大正8年(1918)の大火によって大半が焼失してしまったものの、住民たちの手で、昔の町割や家屋の構造を留めて復元されたものが現在のまちである。北町の重要伝統的建造物群保存地区においては、文化庁の補助を受け修理修景事業を通して保存が図られている。北町地区以外では、地域住民が街並みを守るためのルールを策定し、これに基づき調和の取れた街並みが維持されるよう努めていただいている。一方で、郡上八幡市街地でも空き家の発生と利活用が課題となっており、「チームまちや」という民間団体により空き家の外観を維持したリフォームと賃貸等による利活用が行われている。



また、まちのシンボルである郡上八幡城は昭和8年(1933)に木造の天守閣として復元された近現代の建物である。これまでも石垣や隅櫓などの保存修理を



実施してきた。昨年、再建 90 年を迎えるにあたり、耐震補強を行い、内部の既存の柱に鉄骨を覆って、さらに木板で囲むなどの工夫を行ったが、従来の外観を損なわないように配慮した。

こうしたハードでの保存の取組のほか、ユネスコ無形文化遺産に登録された郡上踊の保存継承にも力を入れている。八幡町内の小学校で総合的な学習の時間のなかで民謡学習を行っており、民謡を身近に感じてもらい、郡上おどり、とりわけ唄い手の育成を目指している。

また、郡上八幡は「水のまち」としても知られており、現在でも、用水路や水舟などの水利用施設は自治会・保存会・住民によって維持管理が継承されている。一方、上下水道の敷設や洗濯機をはじめとする生活家電の普及による水離れや、伝統的な水利用に関する記録体系の整備不足によりその継承が困難となっている。現在、NPO 法人水の学校を中心に、水のまち郡上八幡の調査活動を行われ、市内外に向けて「水のまち」としての発信を行っている。

愛知県名古屋市

▼プレゼンター 松雄 俊憲副市長

名古屋市は、江戸時代には御三家筆頭である尾張徳川家の城下町として、近代以降は我が国における経済産業の一大拠点として発展した、重層的で多様な歴史を持ち、これらを背景に多くの歴史的な資源が残されている。

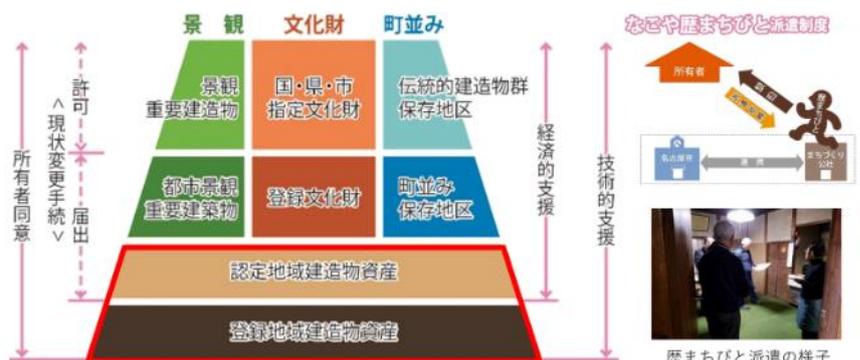
名古屋城から徳川園に至る文化のみちエリアには、江戸時代には武家屋敷が広がっており、明治以降にはノリタケの前身である森村組の絵付工場、トヨタグループの創始者の邸宅・事業所が構えられるなど今日というベンチャー企業の発祥の地で、江戸時代の大名文化、明治時代の先端産業、そして大正時代のロマンを感じさせるエリアである。現在、名古屋市では文化のみち拠点施設として取得した歴史的建造物を公開・活用しており、そのうちの一つである文化のみち榎木館では、ライトアップした庭園を眺めながらのヨガ教室が開かれるなど、積極的な活用がなされている。

また、市東部の城山・覚王山エリアは日泰寺を中心に、昭和初期の歴史的建造物が集積している。日泰寺に隣接する揚輝荘は、株式会社松坂屋の初代社長が大正から昭和初期にかけて建設した別荘で、当時は文化人や政財界関係者の社交場として国内外の賓客が集まる迎賓館だった。現在は名古屋市が取得し、5 棟の文化財建造物と庭園の段階的な整備を進めている。また、登録有形文化財・為三郎記念館を所有する古川美術館では、茶道・香道などの体験を組むインバウンド向けのモニターツアーを実施している。城山・覚王山エリアを今後の歴史観光の拠点にしていきたい。

また、まちの中で身近にある歴史的建造物を保存するため、市独自の登録・認定制度を設けている。建造物が地域建造物資産として「登録」されると、歴史的建造物の専門家である「なごや歴まちびと」の無料が派遣を受けられ、また、有識者会議で「認定」されると、建物の修理工事費などの助



歴史的建造物の保存活用支援



成を受けることができる制度で、文化財指定に至らないものの歴史的価値をもつ建造物の情報を広く集め、それらを壊さず使い続けるための技術的・経済的支援を市全域で行っている。

今後は「第2期歴まち計画」に基づき、核となる歴史的建造物に戦略的に投資し歴史エリアのブランド向上を図りながら、民間・個人が所有する歴史的建造物の保存活用を幅広く支援し、身近に歴史が感じられるまちづくりをより一層進めていく。

三重県伊賀市

▼プレゼンター 岡本 栄市長

伊賀といえば忍者・芭蕉が有名であるが、歴まち計画における重点区域の一つ、上野城下町はそれぞれの時代に斬新なものを取り入れてきた、いわばアバンギャルドなまちであり、これらの歴史の積み重ね・移り変わりを体感できる。例えば、史跡上野城の高さ30mをほこる高石垣、藩校であった史跡・旧崇広堂や武家屋敷である入交家住宅などの江戸時代の建造物、旧制中学校や鉄道駅舎、旧上野市庁舎などの明治から大正時代の建築が城下町に残っている。こうした重層的な歴史をもつ街並みが、平成29年（2017年）日本イコモス国内委員会から日本の20世紀遺産に選定された。

こうした近現代の歴史的建造物本来の価値を維持し、それを付加価値として活用する取り組みを推進している。具体例として、明治時代の旅館・料亭であった国登録文化財「栄楽館」と城下町の町家を活用した古民家ホテル、旧上野市庁舎では民間活力を導入した再整備を実施し、ホテル・カフェを併設した、日本唯一の泊まれる図書館となる予定。今後もそれぞれの歴史遺産の魅力を活かしたまちづくりを進めていきたい。



静岡県伊豆の国市

▼プレゼンター 山下 正行市長

平成27年7月、明治日本の産業革命遺産の構成資産として世界文化遺産に登録された葦山反射炉の保存活用を紹介。

葦山反射炉は日本が列強諸国の脅威にさらされた幕末期に、品川沖のお台場に据える大砲を鑄造するための溶解炉として、葦山代官・江川英龍の進言により建造されたもの。実際に稼働した反射炉としては国内で唯一現存するもので、国内における最初期の煉瓦造りの建造物で、千数百度の高温にも耐える約26,000個もの耐火レンガが用いられている。

この葦山反射炉の保存の取組として、古くは明治41年に保存活動・保存運動をきっかけとして旧陸軍省により保存処理がなされ、大正11年に国の史跡に指定された。以後、大規模地震による被害を受けながらも、数度にわたる保存修理・耐震補強などを経て保存・継承されてきた。一方、時間の経過とともに劣化が進



行、保存のためにはモニタリングと修理が必須であり、令和2年から3年にかけて保存修理を実施した。オリジナルのレンガを活かすため、すべてのレンガを撮影し劣化具合を細かく調査、基準に満たないものは差し替えや充填をおこなった。また、建造物の保存のため、市民や建設業協会によって清掃活動が定期的に行われ、市民を上げて継承に取り組んでいる。

葦山反射炉の活用としては、世界遺産登録を契機にガイダンスセンターを整備、民間組織歴史ガイドの会、外国語ガイドの会によるガイド活動が行われている。また、鋳物づくり体験教室や講演会の開催、市内中学生向けに葦山反射炉検定を実施するなど、官と民、学校教育との連携で、市民の意識や知識の向上を図っている。

伊豆の国市は葦山反射炉以外にも歴史資源が非常に豊富でありながら、市には博物館の類のものがなく、縄文・弥生時代のものから幕末明治のものまで、多くの文化財が倉庫に眠っている状態である。現在、これらの文化財を展示できる施設を整備しようと取り組んでいる。展示施設を拠点とし、市内に多く残る遺跡の周遊を期待したい。



静岡県下田市

人口減少下における観光のまちで人を集める仕掛けについて紹介。近代歴史遺産を観光と組み合わせて活用し、にぎわいが生まれている。具体的には、伊豆石を使ったなまこ壁の蔵が、カフェに改装し利活用。なまこ壁は耐火性能を持たせるために地元材を使う中で確立された建築様式であり、カフェとして来訪者が蔵の内部を見ることができ、歴史的建造物を肌で感じられる、と住民・観光客からも人気を博している。

また、近代建築と伝統文化の掛け合わせ。大正4年に建てられた民家である澤村邸は、内部をギャラリーとして市民の文化芸術活動の拠点となっているほか、下田の伝統文化である下田節の芸子さんたちの練習場としても使われるなど、歴史的建造物の新たな活用方法を模索している。

こうした歴史文化に触れるきっかけづくりにより、人が集うきっかけになり、人が集うことが消費につながる。この消費により、エリアに活気が生まれ、さらに人が集うという好循環を生み出す。このサイクルを確立する仕掛けを作ることが、今後の近代歴史遺産の活用を考える上で重要だと考えている。

市内の観光スポットであるペリーロードには歴史的建造物が軒を連ねるまちなみがあり、その終着点にある空き家で移住者が飲食店を始め、散策を終えた観光客が一休みする場として賑わいが生まれている。このような人が集う仕掛けを作ることによって経済活動が活発になり、活気が生まれ、さらに人が集うようになる。1つ1つは小さい活動かもしれないが、点が線となり、線が面となる事でまちが生きてくる、と考えている。この生きたまちを、実際にご覧いただきたい。

